

# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・自然・社会

『阿修羅像のひみつ 興福寺中金堂落慶記念 朝日選書 975』 興福寺／監修 朝日新聞出版 2018.8 718.7/㍻188

昨今の仏像ブームの中でも、特に高い人気を誇る奈良興福寺の阿修羅像。その内部をX線CTスキャンで調査してみると、今まで知ることのできなかった制作過程の詳細や修復の秘密が明らかに！ 疑問のあった合掌する手の位置、完成型とは大きく異なる原型の表情など、興味深い調査結果が明かされています。

また人間に対して行われる健康診断と同様に文化財に対して行われるCTスキャン調査の方法やその意義が語られ、今後の文化財研究の進化に胸が躍ります。

『ロケットガールの誕生 コンピューターになった女性たち』 ナタリア・ホルト／著 地人書館 2018.7 538.9/㍻187

コンピューターと聞いて、私たちはまず機械を思い浮かべるでしょう。しかし本書の「コンピューター」という言葉は、人間を指しています。宇宙開発の黎明期に、ロケットの軌道や推進力を紙と鉛筆のみで計算していた女性コンピューターたちがいたのです。後にプログラマーの先駆けとなっていった彼女たちは、産休も育休もない時代から、宇宙開発の重要な部分を担っていました。宇宙探査とコンピューターの知られざる歴史を読むことができる1冊です。

『魔女・怪物・天変地異 近代的精神はどこから生まれたか 筑摩選書 0164』 黒川 正剛／著 筑摩書房 2018.8 230.5/㍻188

魔女や怪物、天変地異といった未知のものに直面したとき、私たちはどんな感情を抱くでしょうか。怖さと好奇心の入り混じった感情でしょうか。

本書では古代から近代までの幅広い時代の中で、どのような驚異が記録されてきたのかをいくつかの事例を挙げながら紹介しています。そして、当時の人々が抱いた畏怖や好奇心を宗教の観点を交えながら分析していきます。私たちの持つ好奇心は一体何なのかを考えることができる一冊です。

## 児童・児童図書研究

『かんがえる子ども』 安野光雅／著 福音館書店 2018.6 J914.6/7

『ふしぎなえ』、『旅の絵本』シリーズなどの絵本作家であり、画家の安野光雅さんによるエッセイ集です。「子どもはおとなをよく見ている」、「子どもに本をすすめるのはなぜか？」など、著者の子ども時代やおとなになってからの経験から“考えること”“学ぶこと”について語られています。

「自分で考えなくなっていること」、「何もかも疑う」など、子どもも、おとなも、自分で考えるためのヒントが綴られています。

## 雑誌・新聞

ニュースや今年の異常気象などをきっかけに環境問題に関心を持たれた方も多いのではないのでしょうか？ 今話題の海洋プラスチック問題は、企業の使い捨てプラ製品の利用中止につながりました。リサイクル問題や再生可能エネルギーなどの記事が掲載された雑誌を紹介します。

最新号以外の雑誌は借りることもできます。

『省エネルギー』第70巻第9号 2018.9月 Z/501.6/S17

特集：SDGsが省エネを加速する

『環境情報科学』47巻2号, 2018 Z/519/K40

特集：再生可能エネルギーと地域環境を考える

『日経ESG』No.232 2018年10月号 Z/519/N2

特集：気候変動に次ぐ「第2の脅威」 海洋プラ対策規制の先を行け

『INDUST』第33巻第9号通巻371号 2018.9月号 Z/519.7/I7

特集：資源循環最前線②／「もったいない」が原点 東リ

## 地域

『白河市内戊辰戦争戦死者墓・供養碑調査報告書』（白河市歴史民俗資料館調査報告書2） 白河市歴史民俗資料館／編・刊 2018.6 L215/S8/6-2-2

白河市内に現存する戊辰戦争で亡くなった方たちの墓・供養碑 100基以上を写真つきで解説した資料です。

戊辰 150年の今年、身近にある戦跡を巡って、従軍した人、巻き込まれて亡くなった庶民、戦争を体験し戦後慰霊を続けた人、様々な先人たちに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

『一八六八年の会津藩』若松城天守閣郷土博物館／編・刊 2018.5 L216/W6/1

戊辰戦争から150年という節目の年を迎え、各地で記念事業が行われています。本書は若松城天守閣郷土博物館にて現在開催されている企画展の図録です。

「戊辰戦争とは何か」、「なぜ会津は最後まで戦い続けたのか」、そして会津が貫き通した「義」とは何か。貴重な展示品と戊辰の詳細な解説をもって迫る、圧巻の図録です。